

令和 5 年 4 月 14 日

令和 4 年度経営発達支援計画に係る外部評価

中小企業診断士

北川裕章

コロナ禍における様々な制約下で概ね目標を達成しており、着実に事業が実施された。特に、I.経営発達支援事業の内容の1.地域の経済動向調査から4.事業計画策定後の実施支援に関する事までは目標に対して大幅に上回った項目が多数あった。一因として、川根本町の経営力継続強化補助金の募集があったが、申請に際して68先を支援した実績や、このような機会を会員獲得につなげた努力は高く評価できる。

一方、5.需要動向調査に関することやII.地域経済の活性化に資する取り組みについては、外部環境の変化に合わせて事業自体の中止や大幅に目標を下回る結果も散見された。例えば5.需要動向調査に関することでは「シカやイノシシの食資源化のための調査」及び「ゆず加工品の調査」は実施されなかった。また、当商工会が以前から取り組んできた「ジャーニーオブレイルウェイ」事業は、II.地域経済の活性化に資する取り組みの中核を担っていたが諸般の事情により中止となった。

しかし、前述の中止された事業に代わって伴走型補助金を利用した「SNS ツールによる情報発信事業」が新たに実施され5者が参加した。そこでは商品ブラッシュアップが延べ35回実施され、多数のコメントが寄せられるとともにプレゼントキャンペーンでのリーチ数も計877千に達した。これに取り組んだ事業者だけでなく商品に関連する事業者にとっても需要動向調査や販路開拓に効果があったと思われる。当商工会は、それらに厳しい自己評価をしているが、当初目標とは異なる事業に注力していくことは環境変化に機敏に対応した側面があると評価できる。事業者にとって、このような取組が単年度で終了するのではなく継続されることが求められる。当商工会においても、事業者に自立を促すとともに本年度の経験を次年度以降に生かすことが期待される。

以 上

経営支援発達支援計画講評

島田掛川信用金庫川根支店

支店長 平口 慶喜

経営発達支援計画 3 年目が終了致しましたが、コロナ禍が終息に向かう中での活動となり前半はイベント、セミナー等まだまだ行動制限内での活動を余儀なくされました。

この中で、今だからできる業務を全職員が理解し、経営分析を行う事業者発掘を目的として巡回、窓口相談業務を強化、意欲的な事業者を選定するにあたり町内事業者 137 先の財務力継続強化、物価高騰補助金申請を行い 81 件の承諾を獲得した事は全職員が一丸となって業務に取り組んだ結果であり町内事業者にとって大変大きな功績でありました。

また、伴走型小規模事業者支援推進事業にも取り組み情報集約 SNS『エミコのかわねくらしnote』をはじめフェイスブック、インスタグラムを使った地域の魅力を発信し、各事業者の販路拡大にも貢献しております。

内部管理においては、人材育成を柱として事業者経営指導員外部講習会への積極的参加による経営指導員の資質向上に努め、全職員のスキルアップを目的とし OJT 制度を導入、月 3 回以上の職員ミーティング実施による支援課題、支援方法、地区内情報等の共有化を図り外部環境の変化に対応すべく内部管理体制も改善されており今後の地域事業者支援活動に期待致します。

経営発達支援計画事業評価 講評

令和4年度はコロナ禍のほか台風15号による災害に見舞われ、大変な1年間でした。そのような中で、SNSを活用した伴走型小規模事業者支援推進事業の取り組みなど、全体として経営発達支援事業にしっかりと取り組んでいただいたと評価します。特に、経営力継続強化補助金では、事業者の意識改革のみならず、職員の資質向上にもつながったと報告があり、町としても事業実施の意義があったと感じております。

一方で、外部環境の影響によるもので致し方ないと考えますが、景況調査と需要動向調査を計画通りできなかったことは残念でした。地域経済の現状把握や今後の見通しに関する基礎資料として必要だと考えますので令和5年度には計画目標を達成できるようお願いします。

今後も互いに連携を取り、地域の発展に努めたいと思います。

令和5年4月13日

川根本町産業振興課 課長 澤口誠一郎